

平成14年度第3回日本生物物理学会運営委員会議事録

日時：平成14年4月6日（土）13：00～

場所：東淀川勤労者センター 第5会議室

出席者：柳田会長、児玉、津田両副会長、阿久津、伊藤、入佐、上田、後藤、佐甲、柴田、高橋、中村、美宅、喜多村各運営委員、猪飼編集委員会委員長、垣谷平成14年度年会実行委員長

報告事項：

① 賞・助成金推薦委員会報告 (津田、資料 報1)

山田科学振興財団研究援助候補者に、安藤敏夫氏、山野辺貴信氏を推薦。
第42回東レ科学技術研究助成に原田慶恵氏が採択。

② 日本光生物学協会委員会報告 (津田、報2)

第1回東アジア光生物学会議の準備が順調に進んでいるとの報告があった。

③ 生物物理学研連報告 (津田、報3)

平成13年12月25日に第4回生物物理学研連委員会が行われた。

第1回環太平洋蛋白質科学国際会議（2004年開催予定）の日本学術会議共催を申請したい旨の提案があり、生物物理研連より申請することとしたとの報告があった。これについて、最終的に採択された旨が報告された。2004年4月開催。

第19期に向けて研連の見直し、統廃合を行う上で、現在の研連と専門委員会を一旦すべて廃止し、改めて設置を申請することが決まったとの報告があった。生物物理研連は非常にアクティブに活動しており、廃止は考えられていないということであるが、現在の資料では19期から抜けている。理由がよくわからないので確認する。

IUPUBの次期役員として永山氏を日本から推薦してはどうかとの提案があり承認されたとの報告があった。IUPUB Journal（IUPUB発行の電子ジャーナル）の発刊が検討されており、今後、研連としては会誌編集委員会で議論・検討していくよう依頼するとの報告があった。2005年の国際生物物理学会はフランスのモンペリエで開催されることが決まっている。2008年は、中国ないし米国となる見通しであるとの報告があった。EASB(East Asian Symposium of Biophysics)が2003年に台湾で開催される。韓国の学会が議長学会になっているが、担当者が米国に移住したのち韓国の体制がはっきりしないので、永山委員が確認するとの報告があった。次回から漢字文化圏以外のインドも参加する方向で進んでいるとのことであった。

科研費分科細目について、研連委員が文科省に対する答申や学会からの意見のとりまとめを行ってきた。細目リストに関しては他研連からの提案がほとんどなかったこ

ともあり、学術会議では生物物理研連の提案がほぼ受け入れられた形で文科省に送られたが、最終的に文科省からきたリストがその意見が全く無視されたもので且つ内容がかなり改革されたものであった。キーワードに関しては、学会として提案したものはほぼ受け入れられた形になっている。時限付き分科細目について、生物物理研連からは「蛋白質科学」を提案すべきであったが、間に合わなかったとの報告があった。

構造生物学推進体制に関する情報交換について、Structural genomics の国のプロジェクト（構造ゲノム科学プロジェクト Protein3000）が走り始めたが、これに対応するために蛋白質科学会内部に委員会を作ることになっているがまだ動いていない。これに関して、生物物理研連内に小委員会を設けるべきだというような意見が出されている旨の報告があった。このプロジェクトについては、今月号の生物物理の巻頭言に掲載されるので、参照してほしいとのことであった。関連して、以下のような議論があった。○構造生物学以外にも同じようなプロジェクトが走るが、生物物理研連・学会全体で特別に構造生物学を推進するということか？ ○たまたまそのプロジェクトについてご存じの方が多く、意見を出されただけだと思う。研連・学会全体としての話ではないと理解している。○研連委員会の議長の方が蛋白質科学会の中の委員長であるため、本人が動かなかった旨の報告をただけであると思う。

④ 編集委員会報告 (猪飼、報4)

原稿については順調に進んでいる。生物物理誌の英語版を作るとしたらどのような形にしたらよいかについての議論があり、e-Biophysics (IUPUB 発行の電子ジャーナル、報3参照) に、生物物理に掲載された良い論文を推薦し、英訳掲載することになったとの報告があった。

⑤ サイベック社との契約更新について (猪飼、報5)

サイベック社（旧リアライズ社）と会誌発行業務について委託することを契約した旨報告があった。2002/4/1～2005/3/31の3年間。オンラインジャーナル発行に関する費用が新しく計上された。これに関連して以下の議論があった。○出版委員会と編集委員会の予算の振り分けについて。契約更新の内容については問題ないと思うが、予算が関わる場合は出版委員会の予算委員会で審議しなければならないはず。○オンラインジャーナルについては特別会計から支出することになっており、出版委員会の予算とは別になっている。○1週間後までに内容を確認して会長まで報告。それをもって運営委員会の承認とすることが確認された。

⑥ J-STAGE 利用学会意見交換会報告 (入佐)

J-STAGE とは生物物理オンラインジャーナルの掲載を委託している会である。現在の文字化けなどの問題は、平成16年度からスタートするJ-STAGE 2で改善さ

れる予定。オンライン版「生物物理」誌が、オンライン刊行物用のISSNを取得することになった旨報告があった。

⑦ 平成14年度年会準備状況 (垣谷、報7)

平成14年度年会準備状況について以下のように報告があった。

2002年11/2～4に名大東山地区にて開催。今年会は40周年記念行事として、メインシンポ「転換期の生物物理学」、公開シンポ「これからの生物物理学を考える」(科研費を申請して通った)を開催。一般演題は口頭発表とビデオのみ。最終的に7件のシンポジウムと3件のミニシンポジウムとして11件あった提案のうちすべて採択した(今年は、生物物理学会の前に多くの学会が名古屋であるので)。ランチョンセミナーを新設し2件くらい(蛋白質化学会が11件と多くほかに残っていなかった)。受付はオンラインのみとした。一般発表はOHPのみ、シンポジウムではスライド、OHP、パワーポイントを使えるようにした。

オンライン登録について。アクセスが集中するために起こる重複登録などの問題についてはあらかじめアナウンスする以外に対策がない。託児所300円/hで予定しており、予算としては18万円程度を計上している。年会参加費・懇親会費ともに昨年と同額に設定した。

分野別キーワードについて、前回の運営委員会で決定されたものに変更されている。分野別専門委員の推薦についての記述について実際に機能してないので削除したかどうかという提案があった。今年に変更するのはスケジュール的に無理なので、実情を調べた上で来年以降検討する。

⑧ 平成15年度年会準備状況 (美宅、代理：児玉、報8)

これまでの準備状況についての報告があった。神経化学会との打ち合わせが行われた(2/19)。開催期日、合同シンポジウム、合同懇親会、プログラム、講演、シンポジウム会場、ポスター発表、学会関連業者、大会参加費、展示、運営全般について議論、検討事項の確認を行った。新潟県から交付される補助金の要綱についての資料についての説明があり、予算書の金額は補助金をもらうために多めに計上されているとのことであった。開催期日は、生物物理2003/9/23～25、神経化学2003/9/24～26とすることが決定している。会場が広いのでポスターは期間中ずっと張っておくことが可能であるとのことであった。

⑨ 平成15年度次期会長候補者選挙結果報告 (佐甲、報9)

平成14年2月20日に開票した次期会長候補者の選挙結果について報告があった。議題5にて候補者の選出を行う。

⑩ ドメイン名取得について (入佐、報10)

日本生物物理学会公式ドメイン名を取得し、すでに使用を開始しているとの報告があった。4月会誌のエコー欄ですでに会員には通知済み。

⑪ J-STAGE アクセス統計データ配信について (入佐、報11)

オンラインジャーナルにどれくらいアクセスがあるかメールで知らせてもらうようにした(配布先:鈴木(サイベック社)、河合、入佐)。今のところ1号あたり数件のアクセスがあり、海外からもアクセスがあるとの報告があった。

⑫ 学術会議団体登録説明会報告 (児玉、報12、別添資料)

日本学術会議第19期会員選出についての説明があった。5/31までに学術研究団体の登録申請を行う。12月上旬に会員候補者の選定および指名を経て、来年7/22に任命される予定である。学術研究団体の登録申請に最新の会員名簿の提出が必要で、さらに会員の男女比を報告する必要がある。年会でどれだけ女性が参加しているか常に把握しておくようにという依頼があった。推薦人は各学会から2名ずつ。会員候補者は生物物理学会からは出せないの、物理学会のほうで推薦してもらう必要があるという説明があった。

⑬ 特別会計から支出予定の学会事務局についての調査結果 (伊藤、報13)

学会事務センターに学会運営の業務を委託した場合の見積もりについての説明があった。現在は会員業務を委託している(約500万)。庶務・会計業務を委託する場合は、さらに212万円かかるという見積もりであった。サイベック社は新規の学会業務は受け付けていないため委託は不可能。独自に事務局を持つ事も考えられるが、実際に事務局を持っている学会に問い合わせたところ、東京に事務局を持つ場合で7~800万円かかるとのことであった。この件に関し、以下の意見、議論があった。

○委託しても会長室に秘書がいないと仕事にならない。○継続して委託し、軌道に乗れば学会事務センターだけでもできるのではないか。○委託するにしても会長室に秘書が必要。○会費を集めるのはすでに学会事務センターに委託しているが、それは見積額の中でもわずか。○理想的には会長秘書と業務委託を両方するのがいい。2年ごとに交代する秘書に継続性のある業務をさせるのは、引継などの問題から効率が悪い。継続性のある業務については委託することを検討してもいいのではないか。○現在の仕事の分量を考えながら検討することは継続するという事になった。

議 題：

- ① 「科研費審査委員の選挙」規定（免役規定等）の適用を保留する-臨時運営委員会-（追承認）（津田、議1）

科研費分科細目の大幅な改訂によって、窓口研連、関係研連の担当細目が飛躍的に増えたため、現在の選出数の3倍にあたる90名程度の審査委員候補を推薦する必要があった旨報告があった。選挙のやり直しを行うことが、臨時運営委員会にて全会一致で承認され、今月号の会誌に差し込みが入ったと報告された。

- ② 平成15年度科研費審査委員選挙について（津田、議2）

生物物理学会が出さなければいけない委員候補の数は重複なしで合計71名、（別紙）選挙結果の順位を尊重して、所属が重ならないように各分野の委員候補を決める必要があるとの説明があった。選挙結果をみて、委員候補を決めるプロセスとして、まず、全体を3つのグループに分け、候補の中から、会長副会長がそれぞれの分野に振り分け、その後、それぞれの分野で選ばれた運営委員がその中から候補者を選び、最終的に会長・副会長で候補者を決定することが承認された。

担当：

バイオインフォマティクス：中村、入佐

ナノバイオ：佐甲、栗原

生物物理：阿久津、美宅、伊藤、喜多村、後藤、上田

この件に関し、以下の意見が出された。○来年以降の手続きについてはどうなるのか。○どの細目に生物物理の誰が委員になっているのかを会誌などで公表し、何らかの形で会員知らせるようになる。

- ③ 平成13年度決算報告（案）の承認（伊藤、議3）

一般会計

収入：予算31,740,000円、決算36,093,384円となっており、436万円多かった。機関会員費（大学等、会誌をとっていている機関）が平成9年から減少し続けているが、図書費の縮小などが原因なのではないかという説明があった。広告費も減少しているので、積極的に広告費を取る努力をする。年会時に企業などから集めた寄付が大きいので、積極的に寄付を集めるのがよい、また、出版による収入が大きいので、いい本を書いて出版することも必要などの意見が出された。

支出：啓蒙事業費が赤字になっているが、これは高校生向けパンフレットの増刷による。出版費が予算より決算が80万円少ないが、それは総説等のページ数減少などによるもので、前会長の意向で出版費を900万以内に押さえるように努力した結果で

あるとの報告があった。

名簿情報については、学会から請求があれば1回3万円で情報をもらえる。少なくとも年1回、年会終了後に名簿をもらうことにする。毎月の更新には経費もかさむため、次回までに具体的にかかる経費などについて調査することとなった。

一般会計、会誌電子化・将来事業特別会計とも承認された。

広告費について以下のような意見が出された。○個人的なつながりなどがないと広告を維持するのが難しい。○広告取りキャンペーンをやってはどうか。○キャンペーンをやって、一時的に広告が増えたとしても継続的に広告収入を得ることは難しい。○少なくとも広告の資料請求をすれば継続される。○大きなグラントに当たっている人にどんなものを買っているか聞く。○大きなグラントに当たっている人が生物物理学会にどれだけいるかを調べて、それを企業側に宣伝するなど。

④ 平成15・16年度委員候補者補充について (佐甲、議4)

一般会員からの推薦は8名であったことが報告された。規定に則り、運営委員から推薦し候補者を選ぶことで承認された。50名連記の推薦を4/19までに会長室宛に返送する。一般会員からの推薦が効果的でないので次回の運営委員会で議論することとなった。

⑤ 平成15年度次期会長候補者選出の手続きおよび選出 (佐甲)

次期会長候補者の選出について、これまでの手続きに乗っ取って候補者を選出することで承認。報9の候補者のうち6位までの8名の中から3名連記で投票し、候補者を選出することで承認された。

結果：

氏名	得票数	順位
阿久津秀雄：	3	⑥
石渡信一：	9	①
垣谷俊昭：	4	⑤
木下一彦：	8	②
桐野 豊：	1	⑦
曾我部正博：	3	⑥
津田基之：	6	③
永山国昭：	5	④

上位3名に、現会長から連絡、承諾を得ることで承認された。

⑥ 平成15年度次期会長および平成15・16年度委員選挙要項(案) (佐甲)
選挙広告について、例年通りであるとの説明があり、承認された。

⑦ 平成14年度年会分類表について (垣谷)
昨年の年会と同じにするという提案があり、承認された。

⑧ 会員名簿について (中村、議8)
現在の名簿は自宅住所に空欄が多いので、その部分を削って2段組にしてページ数を減らす方向で検討されている。自宅住所を入れる必要があるかどうかについて、以下の議論があった。○原則として表記するのはどちらか一方だけにすればどうか。○自宅住所を連絡先に希望しているので、一律には決められないのではないかと。○今回はすでに葉書を送って、どちらも表記するのを希望している人もいたので、次回からはそういうことも検討する。

⑨ 会誌100部増刷について (入佐、議9)
学会事務センターから会誌数が100部程度不足するおそれがあると指摘があり、すでに、関係委員らの承諾を得て4月号から100部増刷されている旨報告があった。1号につき15000円程度の増額となる。なぜこのようなことになったのかについて、以下の説明があった。○正確な会員数、会費未納のため会誌配布が停止している会員の数は学会事務センターだけが把握しており、突然部数の増刷を要求される。100部増刷することによって、4月号では、14,511円必要だった。増刷について、承認された。

この件に関し、以下の意見が出された。○未納者についての取り扱いについては、会長室、会員係が中心になって今後検討する必要がある。未納分の会誌を保存しておく倉庫代も高い。

⑩ 平成15年度年会について (美宅)
合同というタイトルを付けて開催するかどうかを運営委員会として最終的に決定してほしいとの要望があり、合同で行うことについてその形式、運営などについて議論がなされた。○合同年会にして、メリットがあまりないのなら、合同シンポジウム程度にしてはどうか。○一般の会員からすれば、合同とついていると名前だけでなく内容も合同でやることを期待する。○神経化学会側は生物物理の手法などに興味を持っており、合同年会に非常に積極的である。一般講演についてはポスター形式で行うことを考えているが、ポスター会場については十分な場所がある。オーバーラップのあるところで合同シンポジウムなどを開催することを考えている。○神経分野と連合するのは、方向としてはいいのではないかと。

いか。語気として「合同」としても強くないのではないか。○今年の名古屋の学会の時に、両方に関係する人が宣伝するなどしておいた方がよいのではないか。○今年の年会シンポジウムでは、神経関係はないので、何か特別に一般会員に説明するような方法を考える。○内容についてはタイトなカップリングでないので問題ないのではないか。名前だけが問題。○両方の学会の内容が入ったプログラムは作りたい。

名称について：合同、連合、共同開催、など様々な意見が出されたが、最終的に、基本的には正式名称はそれぞれの学会で、通称として合同大会ということで承認された。

神経化学会・生物物理学会合同大会

第41回生物物理学会年会

第〇〇回神経化学会

また、今年の名古屋の年会に神経化学会の人を呼んで宣伝するという事も提案された。

以上 （書記：喜多村和郎）